

2-2-③ 全市域へのサービスを束ねる新中央図書館

◆中央図書館がになう4つの役割

中央図書館の活動と場は「4部門」で構成されます。

①-1 「開架部門」：より大きく深い資料世界の展示環境

- ・構造化された配架資料(展示書架)群と多様な閲覧席で構成する環境。
- ・成人・子ども・YA(ヤングアダルト)・雑誌・地域行政などの資料と利用スペースでゾーニングされます。
- ・近年15万冊を超える開架が主流、子ども開架は複本率など勘案します。
- ・図書以外にも音声映像や現物資料の混配展示や情報機器が置かれます。
- ・雑誌のバックナンバーや全集を隣接した準開架(公開書庫)に置く形式も増えています。

①-2 「閉架部門」：多様な資料収蔵の環境群環境(収容拡張性)

- ・閉架書庫：調温調湿防火区画環境に集約的に資料保存します。全市図書館システムの資料を収蔵し、分館の開架を活性化させます。拡張性が必要となります。
- ・準開架/公開書庫：利用度低い図書を集約し、入室接架利用させます。
- ・特別収蔵庫：和書絵画や貴重資料など調温調湿保存のための収蔵庫。
- ・BM書庫：全域奉仕車庫に隣接する自動車図書館用書庫。
- ・整理書庫：受入れ事務に隣接し装備/補修/見計らい業務に使用します。

①-3 「運営部門」：全域システムと中央館のマネジメント環境

- ・奉仕係、資料係、館外奉仕係、企画運営管理などで構成する環境。
- ・上記各々の業務に必要な装備があります。利用者と書庫を結ぶ動線上。
- ・館長、応接、印刷、サーバー室、車庫、スタッフラウンジ介護、会議室なども必要です。
- ・全域図書館員や学校図書館員やボランティアが使う作業/研修室も必要です。
- ・館内直接奉仕と全域奉仕の動線、利用者の音光環境、資料防犯の看視。
- ・分館を「動かない本の置場化」させない、新鮮図書入替えの準備をします。

①-4 「集会・展示部門」：図書館の主要機能環境・場の提供

- ・集会展示機能は図書館に付帯する主要な用途とされています。
- ・図書館が企画する専用の展示室や研修室が必要です。
- ・利用者団体が図書館で派生させる集会や展示の場の提供をします。
- ・視聴覚室、情報編集加工室、印刷製本室、ラーニングコモンズ。
- ・フリースペース、カフェ、野外活動テラスなど規模次第で膨らみます。



魅力的に資料世界表現された開架は、将来を想像し年度を重ね選書構築する司書力に負う。



開架室から見えて入れる公開型の書庫と環境。書庫は将来、増架や書架増設を含め構想する。



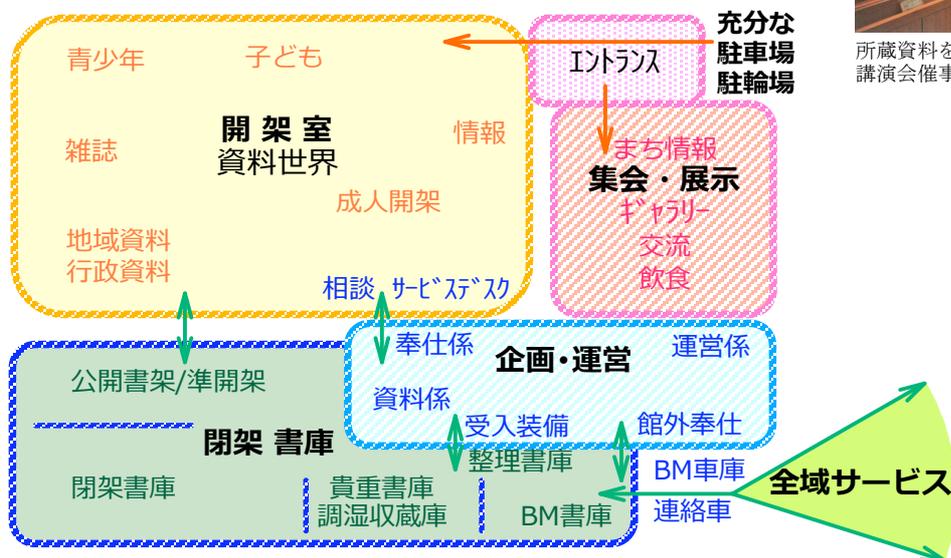
アウトリーサービス部門の装備。移動図書館車に載せる予約本架、サービス拠点数に対応する準備。



所蔵資料を編集し、展示で新しい発見に導く。講演会催事や郷土史研究を編集ストックする。

全域サービスのセンターとしての

<中央図書館の4つの役割とゾーニング>



◆「専門性を蓄積する」図書館であるために

②-1 中央館と分館群の構成バランスが、図書館の魅力/専門性を創出する

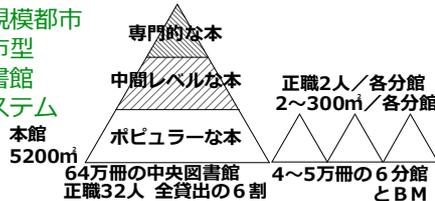
- 比較モデル：全市図書館歳費6.4億円(一般会計の1~1.2%)を投資するA市とB市は、その実績成果と市民満足度に大差がある。人件費・資料費の比率、なにより資料蓄積と専門性の差は、図書館ネットワーク体制と資料配置のシステムに起因すると考えられた。
- 着目点：全域奉仕を統括する強力な中央図書館と分館との役割分担・有機的連携の有無、適正な資料費と専門的職員、目的に叶う施設構成が揃うことが、投資効果要因とされた。

※2000年6月浦安市立図書館長 常世田良氏(立命館大前教授)が図書館連続講座で解説した、「なぜ中央図書館が必要なのか」「図書館群システムが抱える構造的課題と専門性蓄積」講演の論旨を左記に要約した。

同規模都市
A市型
図書館
システム



同規模都市
B市型
図書館
システム



- 資料の蓄積△の白い部分が多いということは、
- ・中規模な図書館群は専門的本の収集に届かない。
- ・本好きの方にポピュラーな本を展示する図書館が形成されて、魅力度が下がってゆく。
- ・ポピュラーな本の副本が多く蓄積されて、どの図書館の中身も金太郎餅的になりやすい。

- 一冊の本にはかたよりや欠けがあっても、**<本の力は数が集まって発揮する>**
- 資料が多く、世界に広がり奥行きが生まれ、**<知識の構造が体系的立体的になる>**
- 中央館大型化で、図書館に自由な空間や機能が増える。
- 全市図書館サービスの、**<コントロールセンター> <バックヤード>**として働く。

②-2 舞鶴図書館の課題環境を知り、東・西館・分館の再編方針を考える

・東西図書館体制の中央図書館への集中は、

「全体図書館システムの再編」
「中心センターの機能再構築」

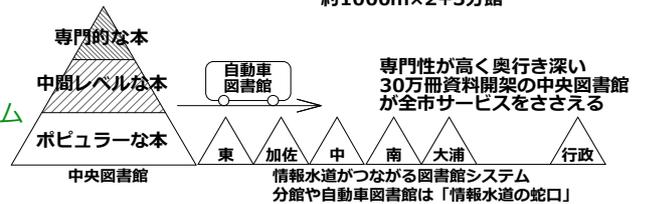
「職員/資料強化計画」が政策3要点。

・成果として「資料群の専門性」が高まり、政策目標指数(貸出率・利用者数・登録者数)が向上、図書館の魅力が市民に認知され、広域連携も他市にとって意味が高まります。

これまでの2極型
図書館システム



これからの
中央図書館と
つながる
図書館システム



◆「まちの広場」(地域情報ハブ)としての求心力

③-1 中心市街地の賑わい創出にも、中央図書館はその魅力と求心力で寄与する

・近隣市民だけでなく周辺部市民を中央図書館に誘い、多様な出会いを創出します。

③-2 図書館の環境は、まちに開かれ、つながり、都市の中心広場となる

・都市や市民に図書館は4つの特性(専門性、広場性、市民性、地域性)を表出します。

③-3 ひとが、出会い、学び、変わる、つながる、ことを支える環境となる

(本に出会い、ものに出会い、人に出会い、自分を確かめる)

・他者や社会と出会う喜びとともに「ひとり自分を確かめる環境」も大切に考えます。



フリースペース/福祉の喫茶コーナーでの集い。



フリースペースで小学生弦楽コンサートと市民写真展。



フリースペースでは 絵本作家が大きなお話し会。



中庭広場の築山/芝生斜面では野外の紙芝居。



ボランティア活躍の人形劇。魅力的な野外広場。



ギャラリーやフリースペースで多様な展覧会。

◆「地域情報ハブとしての図書館」という視点

図書館は地域社会や生活者にとっての「地域情報の中心拠点」であり「ハブ」としても例えられます。図書館は重層的なネットワークを形成し「横串」の情報を提供して、地域における「課題解決」の期待に応えられるように、支援や基盤整備の取組をする必要があります。

※ハブ（HUB）：
自転車の車輪のスポークが集まる中心の軸受け部分。地域社会の人と情報が集まる地域拠点をハブに例える。

□地域の情報ハブとしての図書館

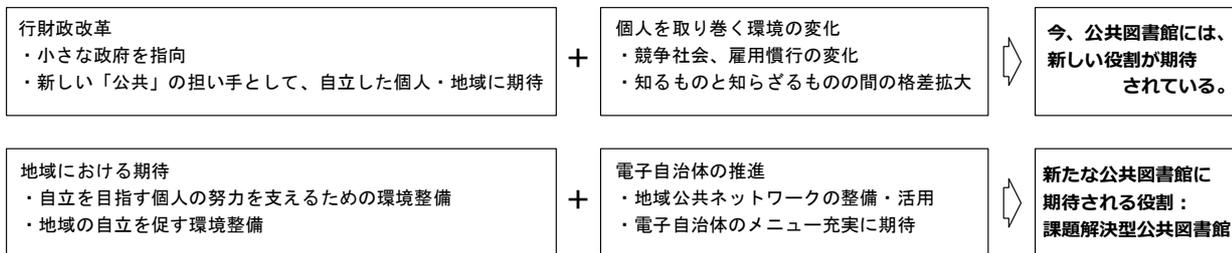
（課題解決型の図書館を目指して）

平成17年1月28日 文部科学省研究会
図書館をハブとしたネットワークの在り方に関する研究会

1. 背景
2. 様々なネットワークを有機的に結合した重層的なネットワークの形成
3. 新しいサービスとしての課題解決型公共図書館における情報提供イメージ
4. 想定される地域課題の抽出
5. 地域において必要な情報基盤整備のための取組
以上抜粋

1. 背景

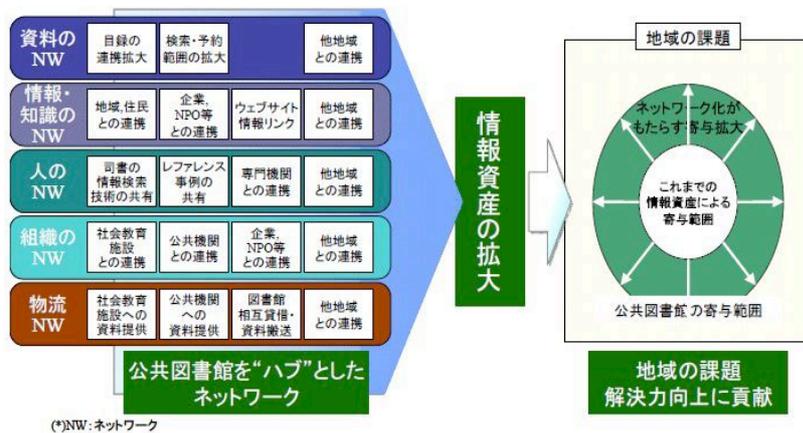
高度情報化社会においては、図書館の使命である情報の体系化・整理という役割は、ますます重要性を帯びてくるものと考えられる。特に、地域における情報基盤の整備を受けて、地域社会における様々な資料や情報を有効活用できるように供することによって、地域の課題解決やそのための人々の取組への展開を支援すること等、図書館には重要な役割を果たすことが期待されている。



2. 様々なネットワークを有機的に結合した重層的なネットワークの形成

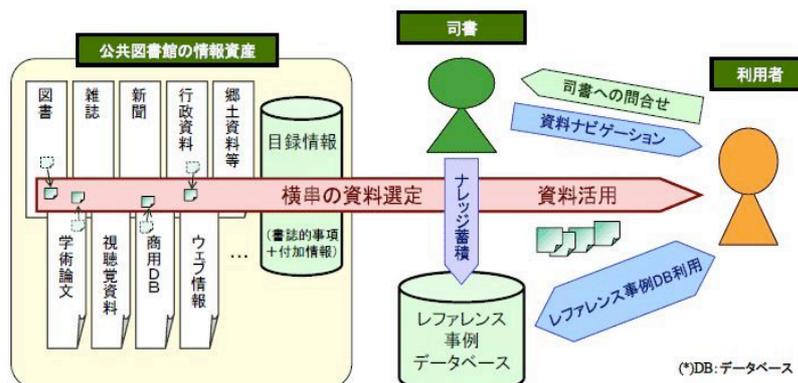
上記の背景にあるような図書館の機能を地域において十分に発揮し、地域における期待に応える充実した情報提供を実現していくためには、公共図書館がハブとなって、地域内の資料、情報・知識、人、組織、及び資料の図書館相互貸借等による多種多様な情報資産を有機的に結合した「重層的なネットワーク」を形成していく必要がある。

その上で、公共図書館の特長である、豊富な情報資産（古文書からデータベースまで、絵本から専門書まで）、司書によるレファレンスや情報検索機能、を核としながら、重層的なネットワークを活用することにより、課題解決型の新しいサービスの提供が行われることとなる。



3. 新しいサービスとしての課題解決型公共図書館における情報提供イメージ

公共図書館において課題解決型のサービスを実現していくためには、司書のサービスによって、それぞれの利用者が有する課題に応じ、先述の重層的なネットワークのなかから横断的に情報が収集（横串の情報選定）され、利用者に十分かつ効果的に提供されることを可能とするための環境整備を図ることが必要である。



- ビジネス／医療／法務の支援、学校教育支援は、「まちづくり」や「地方自治」など都市機能への支援といえます。
- 「市民一人ひとり」に向き合い、個人の必要に応える支援は教育政策・情報政策・包括支援政策のかたちといえます。
- 文科省研究会でも地域課題として想定された「地域課題の解決支援」「個人の自立化支援」「地域の教育力向上支援」にある①～⑥の「6つの課題解決型支援、情報提供」を、理解とスタートの手がかりと考えます。

4. 想定される地域課題の抽出

利用者が有する様々な課題のうち、主要なものとして、現在、公共図書館が行っている国内及び海外の先進事例に加え、公共図書館側の期待効果としての「図書館業務からの視点」、「ネットワーク化からの視点」及び、利用者側の期待効果としての「課題解決からの視点」等を踏まえ、目指すべき公共図書館の取組として優先すべき課題候補を検討した。

<地域課題の解決支援>

①ビジネス支援

空洞化する駅前商店街の活性化や、特産物のブランド化による地域振興のためのビジネス支援策への需要が高まっている。これまでの公共図書館の取組はビジネス関連の蔵書を集めたビジネス支援コーナーを設置する等の取組が多かったが、ICTを活用し、産業振興担当部署との連携や地域の情報資産の動員を図ることによって、より高度なサービスの提供が可能となる。

②行政情報提供

行財政改革の流れから公共の担い手の見直しが行われるなかで、地方の行政や議会の政策立案支援と住民の政策立案過程への参加、及び、住民の生活課題にかかる行政情報の総合的提供への需要が高まっている。そのためには、行政情報の総合的収集、電子化、及び、住民の生活課題に対応した体系化が必要となり、その役割を担うものとして公共図書館への期待が高まっている。

<個人の自立化支援>

③医療関連情報提供

医療サービスが高度化し、多様な選択肢が可能となるなかで、納得して治療を受けるための情報への需要が高まっている。公共図書館では、医療専門書の情報に加え、医療専門データベース、医療機関のウェブ上に公開された資料等、最新の情報を組み合わせて提供し、病気に対する基礎的理解を助けるとともに、健康、予防医学、死生観等、関連する幅広い情報の提供を行うことができる。

④法務関連情報提供

隣人訴訟、環境問題、カード犯罪、リストラ、相続、損害賠償、著作権侵害等、日常生活においても法律の知識が必要となる悩み・疑問・具体的手続に関する情報提供への需要が高まっている。手軽で経済的負担のない情報源として地域の公共図書館の果たす役割は大きい。

<地域の教育力向上支援>

⑤学校教育支援（子育て支援含む）

総合学習等の時間において、自分の住む地域に関する調査を行う児童・生徒に対して適切な資料・情報を提供することや、教員に対して教材作成支援のための資料・情報を提供するための支援体制作りを、公共図書館と学校との連携により構築することが求められている。また、子育て支援に関しては、必要な資料・情報の提供のほか、行政や外部のボランティア団体との連携による取組が必要となる。

⑥地域情報提供・地域文化発信

失われる可能性のある地域固有の風習、祭祀、方言等に関する情報を、博物館や郷土史料館等との連携により、公共図書館が中心となってデジタルアーカイブ化し、体系的に整理保存する。また、地域外の住民に当該地域の理解を促進することや学術研究等のため、インターネット等を使った情報発信も積極的に行う。

5. 地域において必要な情報基盤整備のための取組

上記3.における情報提供イメージを実現していくためには、これらの課題内容に共通の情報基盤の構築が必要となると考え、その主なシステム化要件を、以下のとおり挙げる。

- ①公共図書館及び他施設・他機関保有の資料を課題別に体系化する取組を進め、その整理に従いメタデータを付与することによって、資料目録を総合的にデータベース化し、高度な情報検索を支援するための仕組みを構築
- ②司書のレファレンスに関する経験・ノウハウを集めたレファレンス事例をデータベース化し共有するための環境整備（課題別レファレンス機能等）を通して、司書の課題解決能力の向上と地域課題解決へのノウハウの蓄積に資する仕組みを構築
- ③将来にわたり公共図書館及び他施設・他機関の共有・活用に供するための、地域資料（郷土資料）の電子化と、地域のウェブ資料を含む電子資料のアーカイブ化の取組を推進
- ④利用者の公共図書館利用環境の向上や、ウェブ上からの公共図書館サービスの利用等へのアクセスを容易にするため、公共図書館における情報基盤の整備を推進

※ 文科省研究会の「課題解決型図書館のあり方」検討では、行政情報提供と地域情報地域文化は分けて柱を立てている。

◆「中央図書館へのアクセス」を整える

□舞鶴市の図書館サービスは、どう市民につながるか

広域な舞鶴市に暮らす市民に、新しい舞鶴図書館サービスはどうつながるかを考えます。

- ①市民に身近な全市のサービス拠点に、自動車図書館が出かけに行きます。(地域サービス)
- ②中心市街地の交通結節点である西舞鶴駅東口に中央図書館を整備します。(至便な中央館)
- ③中央図書館には自動車利用の来館を受入れる十分な駐車場を整備します。(中央館駐車場)
- ④中央図書館へ交通弱者アクセスを支える公共交通システムを検討します。(公共交通改善)
- ⑤中央図書館に各方面からつながるバス路線再編の必要性を基本計画審議会は答申します。

「舞鶴市地域公共交通計画」では、図書館サービスに限らず、高齢化社会に移行しつつも便利に舞鶴市に暮らすための社会基盤施策として、バス公共交通の改善が述べられました。それは、都市政策のひとつでもある図書館サービスからの政策課題④と連動しています。

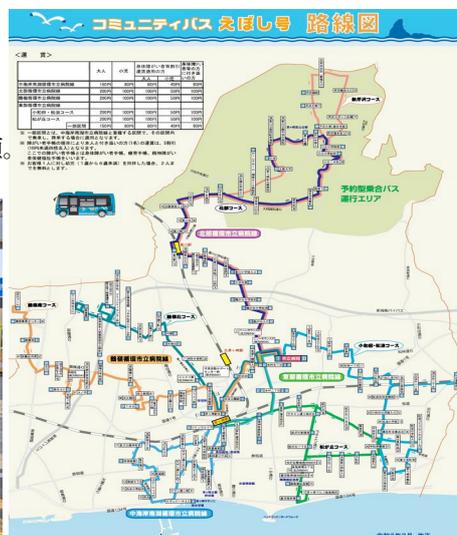
舞鶴市のバス交通システムは東西2駅が起点となり、都心部循環バスと郊外へのフィダ―路線で構成されていますが、自家用車社会でのバス利用者数の伸び悩みから、便数増加や低運賃化が難しく、事業採算性が課題です。上記の交通計画では、都市生活を支える公共政策としての取組が必要な段階であることが示唆されていると考えられます。

令和2年度に実施された舞鶴市共生型MasS「meemo(ミーモ)」実証実験では、住民同士の送迎は、公共交通を補完する仕組みとして、有効な手段であることが確認されました。今後は、高野、加佐地域の社会実験をふまえ他地域への展開を図り、位置づけが確立されます。

バス公共交通の社会政策化と採算性解決の課題は、全国的な課題で各地での取組があり、今後の舞鶴市の研究参考資料になると考えられます。浦安市や茅ヶ崎市の定額のミニバス運行の試みは、舞鶴都心部循環のバス事業の比較検討材料になります。また、より採算性が低い場合には、タクシー会社と官民連携策を組んだ、藤沢市郊外鉄道駅からの循環乗合いタクシー(実証運行中)も、舞鶴郊外へのフィダ―路線検討の比較材料になります。

□茅ヶ崎市「コミュニティバスえぼし号」の事例(企業スポンサー制)

- ・運行範囲：主要駅から市内全域5ルート巡回。(茅ヶ崎市は市域36km²)
- ・運行間隔：1日4本～20本
- ・運賃：大人150～200円、子ども80～100円、
幼児は大人1人につき2名まで同伴無料。障害者と付人は半額。
- ・定員：10人程度



□藤沢市「乗合タクシー」の実証運行中の事例

- ・運行範囲：主要駅から徒歩30分程度の距離を循環で運行。
- ・運行間隔：1時間1本程度。月～金曜(土日祝は運休)
- ・運賃：大人300円、子ども100円、幼児は大人1人につき2名まで同伴無料。
- ・実証運行主体：市都市計画課、市民センター、タクシー会社



※「舞鶴市地域公共交通計画」<公共交通で実現する心が通う便利で豊かな田舎暮らしができるまち>令和3年2月策定
令和3年3月施策スタート
には、自家用車利用が中心の現状から、便利なバス公共交通の充実した社会への移行が必要になることが示された。

※市民ヒアリングでは、郊外につながるバスの運行数や料金についての課題が聞かれた。免許返納が増える高齢化した地域社会の便利な移動手段にかかる課題が想像されている。

※MasSとは、Mobility as a Serviceの略であり、いろいろな種類の交通サービス需要に応じて利用できる一つの移動サービスに統合することと定義される。舞鶴市実験では、市民が自由に交通手段を組み合わせることで目的地まで移動できるようにしており、「困っている人」と「助けたい人」をつなぐ、お互いさまの「共生」の仕組みを実現することから共生型MasSと呼称している。

※茅ヶ崎市と藤沢市は神奈川県南部の湘南海岸に面した隣接市で、人口24万人と44万人。JRと私鉄駅徒歩圏から外れるバス利用圏域での高齢者移動手段確保に課題がある。

